

令和元年度 地域の元気応援事業 ふりかえり報告書



松阪市 企画振興部 地域づくり連携課

令和2年7月

はじめに

1. 地域の元気応援事業について

地域の元気応援事業は、住民協議会やNPO等の市民活動団体による地域の特性を生かした魅力ある活動を応援する事業です。下記2部門で募集・審査を行い、優れた事業提案に対して活動資金を交付します。

2. 部門紹介（平成31年度地域の元気応援事業 募集要項の内容）

（A）地域力アップ部門

対象団体	住民協議会
部門の概要	単独の住民協議会または複数の住民協議会が共同で行う事業を対象に、地域計画等に基づき、地域の個性を生かし、地域が一体となって地域の課題解決に取り組んでもらうことを目的とした部門。 これまで続けてきた事業をさらにステップアップさせる場合も対象。
支援額	上限20万円（活動交付金に加算）※地域づくりスポンサー賞で上乗せあり

※地域づくりスポンサー賞とは？

企業が地域社会の発展に賛助いただくことを趣旨として、住民協議会が行う活動を応援する賞です。（A）部門の事業提案の内、付加価値のある優れた事業提案に対して、20万円を上限として上乗せで交付します。

（B）市民活動サポート部門

対象団体	松阪市内の地域づくりに寄与する、NPO等の市民活動団体（※）
部門の概要	NPO等の市民活動団体がおもつ特性を生かしつつ、主体性を発揮し、住民協議会との連携や支援を図る事業を実施することで、地域の活性化に役立ててもらふことを目的とした部門。
支援額	上限10万円（事業費の2分の1まで）

★応募の際、関係する住民協議会の推薦が必要となります。

※対象となる団体は、公共の利益や社会貢献を目的として主体的・自主的な取り組みを行う、5人以上で活動する団体です。法人格の有無は問いません。ただし、未成年者だけで構成する団体は除外します。

令和元年度 採 扱 事 業 紹 介

(地域力アップ部門)

ページ	事業の名称／協議会名	事業概要	スポンサー賞
3	癒しの里宮前宿満喫！体験イベント	癒しの里宮前宿を満喫していただくさまざまな体験イベントを実施します！	
	宮前まちづくり協議会		
5	『豊田地区避難所運営訓練 クロスチェック』	男女別避難所運営訓練を実施し、意見をクロスチェック。避難所のあるべき姿を模索。	
	豊田まちづくり協議会		
7	はたどの祭りと機殿苺大福の日	農と歴史の郷、機殿！苺、米が題材！全てに魅力満載！来て、見て、食べて、楽しんで！	宇野重工 (株)
	機殿まちづくり協議会		
9	迫る！南海トラフの恐怖。『命を地域を』どう守るか。	南海トラフ地震・津波から“命”を守る！今、あなたが、地域がやるべきこと。	三重化学工業 (株)
	松ヶ崎まちづくり協議会		
11	HGK（波瀬の元気な高齢者）48応援事業	元気な高齢者人口比率48%以上を維持するため活動サポーターの掘り起しを行います。	松阪新電力 (株)
	波瀬むらづくり協議会		
13	歴史文化のまち いざわ“郷土を俳句のまちに”	“郷土を俳句のまちに”を目指し、地域特有の歴史的資源を活用し地域の活性化を図る。	水谷養蜂園 (株)
	射和地区まちづくり協議会		
15	阿坂フェスタin白米城 もちろん婚活も！！	美しい風景の中で阿坂の魅力を満喫するとともに、素晴らしい出会いを見つけませんか！	
	阿坂まちづくり協議会		
17	お江戸の文化を未来へつなぐ大作戦	文化の継承とまちの活性化。まつりを活かしてみんなでまちの未来をワーキングします。	(株)第三銀行
	大石地区まちづくり協議会		
19	まかせて！！漕代支援隊 買い物外出支援の開始	地域の一人暮らしや高齢者の世帯を対象に生活支援に加え、買い物外出支援を行います。	マックスバリュ 東海(株)
	漕代まちづくり協議会		
21	松尾独自の防災への取り組みと避難所運営委員会	指定避難所の運営マニュアルに併せ避難者に解り易い配置図やサイン類を整備する。	
	松尾まちづくり協議会		
23	“清流中村川と地域の風土体験に学ぶ” パート4	清流中村川の魅力と脅威とは何かを考え、地域の良さを知り、又、災害訓練等の実施。	
	豊地まちづくり協議会		

(市民活動サポート部門)

ページ	事業の名称／団体名	事業概要	スポンサー企業
25	困っているママに寄り添う「リアルママカフェ」	座談会をきっかけに地域の困っているママ達が気軽に集まれ地域と繋がる場を作ります。	辻製油(株)
	まつさか子育てママチーム		
27	分割・移動式の「香肌峡どこでも舞台」活用事業	移動式ウッドデッキの製作とその活用方法の検討をワークショップの形式で実施します。	マックスバリュ 東海(株)
	特定非営利活動法人 i sierra		
29	プラスで繋げ、人と地域	子供たちの元気な演奏で、地域の音楽文化の発展、町に笑顔と交流の輪を拡げます。	松阪新電力 (株)
	松阪ハーモニックジュニアバンド		

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 宮前まちづくり協議会

事業名 癒しの里宮前宿満喫！体験イベント

事業概要・目的	宮前宿が松阪の奥座敷として癒しの里となるよう、ウォーキングと参加型イベントを組み合わせ宮前宿の更なる魅力を発信し、リピーターの増加を図る。		
現状と課題	飯高駅の来客者は年々増加し、年間35万人に上り、ウォーキング客も5千人余りになる。これが一過性のものにならないよう、松阪市内の方を対象に更なるリピーターの増加等発展を図りたい。		
事業内容	地域外の親子連れを対象に、飯高駅から珍布峠(めずらしとうげ)ウォーキングコースを植物など自然を楽しみながらウォーキング。ガイドボランティアさんにガイドをお願いしました。赤桶(あこう)集会所からはバスで「つつじの里荒滝」へ移動し、次はアマゴつかみ体験を楽しんで頂きました。その後食育を兼ね、自分が捕まえたアマゴをボランティアさんにさばいてもらうところを見学し、自ら炭火で焼いておにぎりや豚汁と一緒に食べていただきました。		
	事業費	(採択金額) 200,000円	(総事業費) 200,884円
	実施日・期間	令和2年6月29日(土)	参加対象者・人数 81名
工夫したところ 悩んだところ	地域外の親子を対象とする為、チラシをどの様に配布するか悩みました。広く配布しても受け入れ人数に限りがあるので、宮前管内(飯高駅、三重金属、有徳園など)で働く人に募集をかけました。		
成果・効果	仕事で飯高に通っているが珍布峠のことも知らなかったという方や、飯高駅は来たことがあるが荒滝は初めてという親子もみえ、地域の魅力を発信できたと感じられました。つつじの里荒滝では普段はマス釣りを楽しむことができるので、次回はそれを楽しみに誘い合って来ていただければと思います。		
これからの 事業展開	今回は珍布峠ウォーキングとつつじの里荒滝での体験を組み合わせたのですが、そば打ち体験や餅づくり体験など他の体験と組み合わせたイベント考えています。		

活動の様子など



「飯高茶屋」前で受付をし、参加者の目印であるバッジを付けてまずは珍布峠をウォーキングしました。



途中の礫石（つぶていし）付近にて。美しい榎田川を眺めながらしばしの休憩です。礫石に小石を投げて運試しをするスポットです。



赤桶集会所からバスで「つつじの里荒滝」へ移動し、いよいよ子ども達お待ちかねのアマゴつかみです。軍手をして子どもたちだけで捕まえます。



捕まえたアマゴはボランティアさんにさばいていただき、子どもたちは食育を兼ねて見学しました。



最後に炭火で焼いて試食です。自分で捕まえたアマゴの塩焼きはまた格別です。おにぎりや豚汁と一緒に何度もおかわりし、おなかいっぱいになりました。



「つつじの里荒滝」では後ろに見える池でマス釣りを楽しむことができます。次回はマス釣りを楽しみに来ていただければと思います。

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 豊田まちづくり協議会

事業名 豊田地区避難所運営訓練クロスチェック

事業概要・目的	平成30年度の松阪市地域の元気応援事業を活用して策定した『避難所運営ゲーム REAL HUG Ver豊田地区』を男女別階層に分けて展開し、地域住民の防災意識向上の為、提案し実行する事を目的とする。		
現状と課題	これまで『避難所運営ゲーム REAL HUG Ver豊田地区』を策定し、実際に避難場所となる豊田小学校の現状を把握、豊田小学校をモデルとした専用の敷地図を作成、『避難所運営ゲーム HUG』を使用している訓練を実施したが、男性主体の意見が多く、女性目線での意見が不足していた。		
事業内容	平成30年度までの避難所運営ゲームの結果を分析・検証したところ、参加者の性別が偏りがちであったため、今回新たな計画として男女別に避難所運営ゲームを実施した。その結果を集計し、男女という性別の異なる思考により導き出された結果を相互に確認(クロスチェック)することで、より多数の意見を集約し、その結果を資料に反映することを目的としている。 平成30年度までの避難所運営ゲームの分析結果において、できていない部分についての課題の解消を目的に、平成31年度避難所運営ゲームを実施し、集計結果のクロスチェックにより、避難所のあるべき姿と、豊田地区避難所運営マニュアルの策定を実施する(なお、マニュアルの策定は新型コロナウイルスの影響により未実施)。		
	事業費	(採択金額) 200,000円	(総事業費) 240,597円
	実施日・期間	令和2年2月2日(日曜)	参加対象者・人数 80名
工夫したところ 悩んだところ	平成26年度からほぼ毎年行ってきた避難所運営ゲーム(HUG)において、幅広い年代の男女がHUGを体験・習得し、災害発生時には技術を習得した多くの人で避難所の運営をしていた。ただ、参加者の性別が偏りがちであったため、今回年代を拡げ男女に分かれるグループ構成とした。参加人数の都合で混合グループも発生したが、大きな問題とはならなかった。		
成果・効果	避難所運営ゲームは何度行っても同じ答えが無く、様々な意見を集約することができた。また、グループ内のイニシアチブを発揮する人により、避難所運営状況が大きく変動する為、避難所では即決できる人を窓口にすることが重要であることが判明。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置に伴い、避難所運営マニュアル作成に向けてまちづくり協議会として協議することができず、マニュアル作成作業が未了となっている。		
これからの事業展開	避難所運営マニュアル整備を行う所までを、今年度(平成31年度)の作業スキームと考えていたが、次年度(令和2年度)の事業に今年度の結果を反映することでより具体的なマニュアルとなると考え、今年度の事業結果を基に避難所運営に関する最終報告として、マニュアル整備を行う予定。		

活動の様子など



令和2年2月2日に豊田地区防災訓練が実施されました。



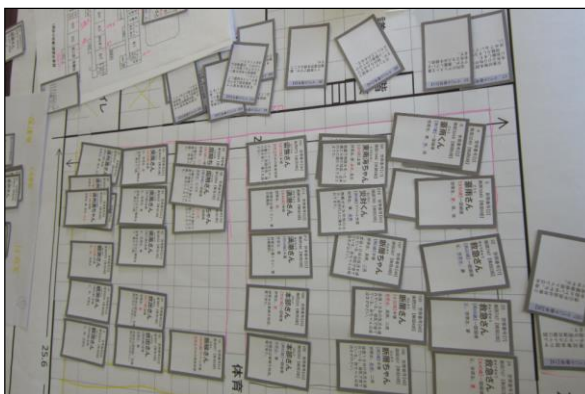
松阪市防災対策課の方から避難所運営ゲームの概要説明を受けました。



男女別にグループ分けし、男性目線での避難所開設について意見を交わしました。



避難所開設について、女性ならではの意見が多く出されました。



男女別に出た意見を抽出し、結果の集約・分析を行いました。



校庭の使い方についても、男女での考え方の違いが見受けられました。

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 機殿まちづくり協議会

事業名 はたどの祭りと機殿苺大福の日

事業概要・目的	<p>機殿最大の特長、“農と歴史”を生かした祭りを開催する事業です。この祭りは農産物の販売と食の祭典を中心として、歴史ウォーキング等も取り入れています。目的は地域の皆さんの積極的な参画によって交流を促し、村おこしをすること、祭りをとおして機殿の魅力を幅広く発信することです。</p>		
現状と課題	<p>少子高齢化、臨海部の衰退、国の労働年齢の引き上げによる地域役員のなり手不足の問題。現状として機殿地区は全てがあてはまる状態です。そのため、地域を活性化して住み良いまちをどのようにして作っていくかが課題となります。</p>		
事業内容	<p>①はたどの祭り ○農産物の販売（苺、米、白菜、キャベツ、トマト、じゃがいも、ブロッコリー等の販売） ○食の祭典（苺大福、シフォンケーキ、豚汁、焼きそば、切りもち、焼き芋 等） ○イベント（苺ミルクの早飲み競争、豆の詰め放題、お茶の詰め放題、凧作り等） ○機殿歴史ウォーキング ○機殿の竹、すすき、ひょうたん等で作った物の展示・販売 ○子ども達の農業体験の発表、お米の販売体験 ○もちまき</p> <p>②機殿苺大福の日（中止） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 【予定していた内容】 ○手作り苺大福の試食（２種類、計３００食） ○苺の販売（３００パック）</p>		
	事業費	（採択金額） 400,000円	（総事業費） 945,954円
	実施日・期間	令和元年12月22日（日） ※令和2年 3月15日（日）中止	参加対象者・人数 600名 ※300名 中止
工夫したところ 悩んだところ	<p>地域の交流が目的の一つにあるので、この事業のスタッフとして地域の役員ではない方が多く参加していただけるよう地域内で参加の声掛けをするなど工夫しました。苺の販売が混雑する、イベントが重なるとスタッフ不足になる等、問題点が分かってきたので、動線の再構築、時間帯でスタッフ配置を変更する等工夫しました。祭りの準備と当日の運営に関し、一部のスタッフに負担が偏っているのが悩みの一つとしてあります。役割分担の見直しや適材適所の配置を検討していきます。</p>		
成果・効果	<p>この「はたどの祭り」のスタッフとして機殿地域の方がたくさん関わりました。それによりコミュニケーションが図られ、一体感も出たように思います。また、機殿の特長である農と歴史を機殿内外にPRできたと思います。地域の活性化と住み良いまちづくりに一定の効果がありました。</p>		
これからの事業展開	<p>今後も機殿の最大の魅力である“農と歴史”を前面に打ち出していきたいです。農と歴史に関連のあるもの全てを深く掘り下げていきたいと思っています。これが継続できれば、機殿の未来が明るいものになっていくと思っています。機殿の農産物のブランド化、機殿の農産物をいかした食品開発等につなげていければ、更なる地域の活性化やまちづくりをする自主財源の確保などができるはずです。</p>		

活動の様子など



「はたどの祭り」
来賓、スタッフの集合写真



機殿特産の苺の販売（大人気!!）
章姫、かおり野、紅ほっぺ、ともゆき



白菜の販売
なんと、大玉1個：100円！



苺ミルクの早飲み競争
子ども達に大好評です



子ども達のお米販売の体験
農業体験で育てたお米です



もちまき・お菓子まき
皆さんに楽しんでいただきました

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

＜地域力アップ部門＞

住民協議会名 松ヶ崎まちづくり協議会

事業名 迫る！南海トラフの恐怖。『命を地域を』どう守るか。

事業概要・目的	地域の防災力のアップに向けた活動の推進			
現状と課題	松ヶ崎地域は沿岸に位置することから、南海トラフ巨大地震による津波・液状化等の惨事が想定される。			
事業内容	<p>■<u>地域防災訓練を開催</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、消防団とも連携した訓練を実施。 ・[一般住民対象] <li style="padding-left: 20px;">要配慮者避難支援訓練 (高齢者や障がいのある方等の要配慮者の避難を想定した訓練) <li style="padding-left: 20px;">倒壊家屋からのけが人救出訓練 <li style="padding-left: 20px;">AED操作訓練 <li style="padding-left: 20px;">応急担架の創り方訓練 など ・[小学校児童対象] <li style="padding-left: 20px;">小学校教室での地震対応訓練 <li style="padding-left: 20px;">松阪市指定避難先(アピタ)へ集団避難訓練 など <p>■<u>南海トラフ巨大地震の情報を記載した冊子(南海トラフ情報)・個人データ記載手帳(命のカルテ)の発行</u></p> <p>冊子は全世帯(約600世帯)、手帳は75歳以上の高齢者に配布</p> <p>■<u>災害備蓄品の購入</u></p> <p>■<u>防災講演会を開催</u></p> <p>「南海トラフ巨大地震から命を守る！」をテーマに11月22日に講演会を開催し、50名以上が参加。講師は、三重防災アドバイザーとして活躍される三重大学院准教授 川口 淳氏。</p> <p>■<u>地域防災計画の策定</u></p>			
	事業費	(採択金額)	400,000円	(総事業費) 431,647円
	実施日・期間	通年		参加対象者・人数 防災訓練 250名 情報冊子 各戸配布
工夫したところ 悩んだところ	防災訓練については、要配慮者対策を重視すると共に、参加者全員が体験する「体験型訓練」とした。			
成果・効果	参加者数名から感想を聞き取りしたが、全ての人が防災事業の必要性を認識しており、安全安心への意識の高さがみられた。			
これからの 事業展開	南海トラフ巨大地震対策及び大雨・洪水対策をわかりやすく地域住民に提供することで、松ヶ崎地域の相互支援(共助)体制の強化を図る。			

活動の様子など



倒壊家屋からのケガ人の救出訓練



要配慮者避難支援訓練



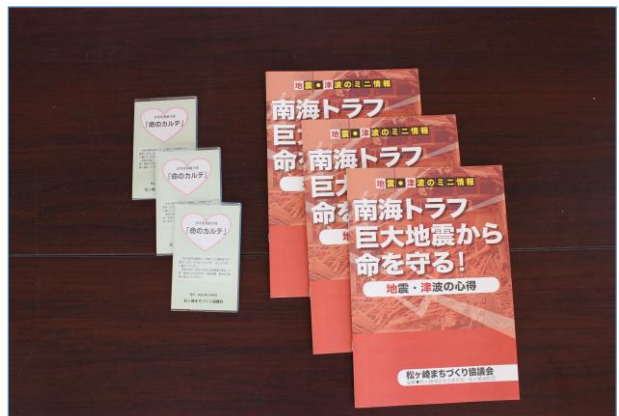
A E D 操作訓練



起震車による震度7の体験訓練



消防団の先導によりアピタへの集団避難行動を行う小学生



南海トラフ巨大地震情報冊子の発行
個人データ記載手帳（命のカルテ）発行

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 波瀬むらづくり協議会

事業名 H G K（波瀬の元気な高齢者）48応援事業

事業概要・目的	波瀬（H）の元気（G）な高齢者（K）の人口比率48%以上を維持するため、波瀬むらづくり協議会が年間を通じて行っている行事のサポーターの新規掘り起こしと「活動のための環境整備」に取り組みました。		
現状と課題	波瀬地域の高齢化率は67.5%で、20年後に90%になると予想されています。空き家バンクで移住者を呼び込むためには、現在住んでいる住民が元気でなければいけません。魅力のない地域に移住しようとする人はいないでしょう。		
事業内容	<p>① ウォーキング初級者コース（宿場の道）のボランティアガイドを新規で5人確保するとともに、コースの案内看板を整備しました。 スタッフの新規確保に当たっては、宮前小学校の遠足時に、ガイドボランティア研修会を兼ねて配布したマニュアルに基づき補助ガイドを経験していただきました。その後、飯高中学校の遠足時や夏の体験学習時のガイド、松阪市ウォーキングサポーターとの研修会、大石まちづくり協議会とのひなまつりウォーキングで経験を積んでいただきました。</p> <p>② 波瀬ゆり館で行っている「生きるを学ぶ」体験学習のスタッフ（あまごの塩焼き、クレソンうどん打ち、郷土のお菓子づくり）を新規で3人確保しました。 スタッフの新規確保に当たっては、従来のスタッフが声掛けを行い手ほどきをしながら経験を積んでいただきました。</p> <p>③ 夏まつり時の盆踊りの踊り手や音頭取り、太鼓たたきなど伝統文化の継承者を各自治会単位で声掛けをしていただき新規で4人確保しましたが、台風の直撃でイベントが中止となりました。</p>		
	事業費	(採択金額) 400,000円	(総事業費) 400,366円
	実施日・期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日	参加対象者・人数
工夫したところ 悩んだところ	地域資源を活用した3つのキーワード（山、川、里）を用いて、わかりやすい体験学習メニューを提供しました。 サポーターの高齢化による、夏季の体調管理に配慮したローテーションと、スポーツドリンクや塩飴を常備して熱中症予防にも取り組みました。		
成果・効果	関西学院大学の学生さんが、小学生の生徒や先生方と泊りがけで全プログラムを体験していただき、シーズンオフの11月30日から12月1日かけて、体験のふりかえり報告会を行い次年度以降の課題解決に向けて検討しました。		
これからの 事業展開	現時点で、新型コロナウイルスの影響で予約されていた体験学習はすべてキャンセルとなりました。次年度以降の取り組みに向けた新たなメニュー作りへの準備期間として環境整備に取り組みながら継続していきます。		

活動の様子など



スポンサー賞を寄贈いただいた松阪新電力株の皆さんとともにウォーキングコースの案内看板を設置しました。



ウォーキング初級者コース（宿場の道）では、年間を通じてたくさんの参加者が波瀬の歴史について学びにお越しいただきました。



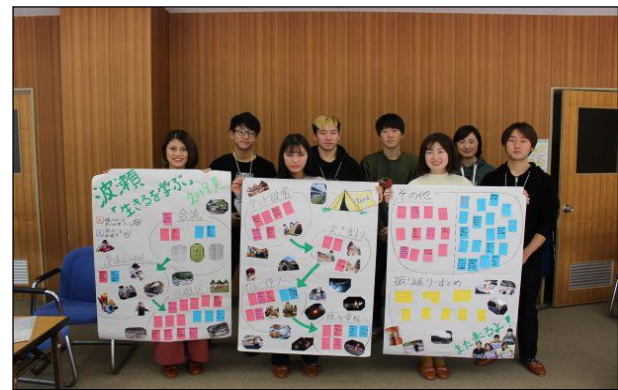
校舎に囲まれた中庭へ5人用テント設営を行いました。新型コロナで騒がれている現在では、3密の回避により継続が危ぶまれているメニューの一つです。今後の対策を模索中です。



管内のNPO団体と連携して、初めてカヌー体験を行いました。



一番人気のアマゴつかみ体験による川遊びです。



関西学院大学の学生さんが、体験学習にサポーターとして実体験をしていただき、ふりかえり報告会を行いました。課題や問題点をもとに必要な環境整備を行いながら事業を継続していきます。

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 射和地区まちづくり協議会

事業名 歴史文化のまち いざわ “郷土を俳句のまちに”

事業概要・目的	<p>継続事業として、「俳人大淀三千風(おおよどみちかぜ)の顕彰と郷土を俳句のまちに」をテーマに、句碑建立や俳句展、講演会、吟行軌跡めぐり等を行った。また、来訪者用に句碑説明看板を設置したり、散策コースマップも作成し、“俳句のまちいざわ”の発展並びに活性化につながって行くことを目指している。</p>		
現状と課題	<p>当初計画は、句碑建立、児童俳句展などだったが、地域内外へのアピールが弱いと考え、更に句碑説明看板や散策マップの作成、シンポジウムの開催などを積み上げたことによる財源の確保が必要となった。また、風化させないために継続事業が考えられる。</p>		
事業内容	<p>この事業は、平成29年度からの継続事業として、「歴史文化のまち いざわ “郷土を俳句のまちに”」をメインテーマに活動を続けています。 今年度は、地元住民や来訪者にも俳句に親しんでいただけるよう句碑建立6基やモデルコース案内板を設置したり、シンポジウム、基調講演会を行った。 射和小学校児童(3年生以上130名)に俳句の募集を行い、表彰、展示会も開催した。 また、地域住民にも出前講座や句碑、案内板の除幕式を開催し、句碑めぐりの散策と吟行も行い振興を図った。散策コースマップの設定やパンフレット(2000部)を作成、さらに、射和郷土史研究会の協力を得て長年の懸案であった射和地域の歴史・文化・遺跡・旧跡等を集約した冊子(400部)も作成し、PR用として自治会関係機関等へ配布した。歴史、文化を後世に継承していく上においても貴重な冊子づくりとなった。</p>		
	事業費	(採択金額) 400,000円	(総事業費) 774,859円
	実施日・期間	令和元年7月～令和2年2月	参加対象者・人数 小学生185人、地域住民
工夫したところ 悩んだところ	<p>事業を展開する上で予算が膨らみ、協賛資金だけでは賅いきれなくなり、自己資金として自治会や公民館の自主財源を充てて事業を展開した。 この事業は単年で終わらせるのではなく、風化させないためにも、継続が大切だと考えます。</p>		
成果・効果	<p>地域住民の郷土愛やふるさと意識の高揚につながったように思います。 これらの取組から、郷土の偉人の顕彰や史跡、文化の保存活動の大切さが芽生えてきたように感じます。また、マスコミ各紙等に大きく取り上げていただくなど、歴史、文化のまち”いざわ“を内外に発信できました。</p>		
これからの事業展開	<p>これまでに培ってきた調査、資料、それらをまとめた冊子、看板づくりなどが、単年で終わることなく、継続して啓発事業を行うことが、郷土愛につながり、少子高齢化等が進むなど、地域が停滞しつつある中、元気なまちづくり、地域の活性化につながって行くものと考えています。</p>		

活動の様子など



俳人“大淀三千風”の顕彰と郷土を俳句のまちに！



令和元年10月13日
歩こう会行事で案内板除幕式と史跡散策コース参加者



令和元年9月
大淀三千風ゆかりの地に建立した句碑と説明看板
(全6基)



令和元年11月21日
基調講演会「芭蕉と三千風」



令和2年3月12日
「ふるさとを訪ねて」発刊



令和元年10月31日
児童俳句展と入賞者表彰式 (射和小学校体育館)

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

＜地域力アップ部門＞

住民協議会名 阿坂まちづくり協議会

事業名 阿坂フェスin白米城 もちろん婚活も！！

事業概要・目的	<p>阿坂地区には、数多くの歴史・文化的な史跡や、四季を通じ素晴らしい景観や多くの名所があります。また、穏やかな気候と肥沃な土地が広がり、美味しいお米や野菜が採れる地域です。しかし、若者が働くことができる産業が無いため若者の流出が止まらず過疎化が進行しつつあります。</p> <p>数多くある阿坂の魅力を発信し、若者に出会いの機会を創出することで、地元にとどまってもらうことや他地区から若者を呼び込むことを目的に婚活第2弾を実施しました。</p>		
現状と課題	<p>過去5回の元気応援事業では、主に白米城跡を中心とした登山ハイキングにより、阿坂地区の魅力を発信してきましたが、登山ハイキングを愛好される人たちに限定されていきました。そのため広く一般の方にも、登山のみではなく、おいしい農産物、気候風土の良さ、子育て環境の良さを積極的に発信する必要があります。</p> <p>また、前回実施した婚活イベントは地区外の方の参加が大半であったが、地元の未婚者にもこのような活動に気楽に参加してもらう必要があり、今後も継続して活動に取り組む必要があります。</p>		
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 白米城登山と写真コンテストの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・フェイスブックによる投稿や、イベント実施時の撮影した写真のコンテストを実施 ・展示： 1月9日～1月24日（松阪市役所1Fロビー） 2. 婚活イベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者を広く募集し他の住民協議会や団体などと連携し、地元未婚者にも気楽に参加できるイベントを実施 3. 農家市場の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・地元で栽培されている野菜、果物、花卉(かき)を広く集め、農家市場を開催 ・白米城登山・ハイキング参加者以外にも地元農産物の販売 ・地元小学校と連携し、児童が一生懸命に栽培した野菜などの販売 4. おもてなし <ul style="list-style-type: none"> ・地元野菜を使用した芋煮鍋、松阪赤菜のおにぎりなどのふるまい 		
	事業費	(採択金額) 200,000円	(総事業費) 259,732円
	実施日・期間	令和元年度11月17日	参加対象者・人数
工夫したところ 悩んだところ	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハイキングコースを一般参加者とは別にし、地元未婚者にも気楽に参加してもらえぬ婚活を実施 2. 若者に阿坂地区の魅力を発信してもらうため、フェイスブック投稿による情報発信や写真コンテストを実施 3. 従来は、登山・ハイキング参加者のみの参加であったが、今回は広く一般に参加者を募集し、より多くの人に阿坂の魅力を発信 		
成果・効果	<p>イベントに参加して阿坂の素晴らしさを実感してもらうことで、参加者にはイベントを楽しんでいただけ、白米城登山者の増加にも効果が出ている。また、イベントに協力いただいた地元住民には、地域行事への関心を高めてもらうことができ、農家市場へ参加の地元農家には意欲の高揚となった。総合的に地域の活性化に繋がった。</p>		
これからの事業展開	<p>阿坂の魅力をより多くの人に発信し、当地区への移住促進と若者の地元への定着の一助とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 若者の定住しやすい環境整備 2. 史跡、名所の継続的な整備 		

活動の様子など



阿坂運動公園
スタート前の準備運動 ストレッチ体操



白米城頂上での記念撮影



婚活イベント「De愛」
阿射加神社での顔合わせ



白米城頂上での風船飛ばし



阿坂運動公園 おもてなし会場
芋煮鍋・赤菜おにぎりのふるまい



阿坂フェスIN白米城写真コンテスト
展示： 2020年 1月9日～24日

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 大石地区まちづくり協議会

事業名 お江戸の文化を未来へつなぐ大作戦

事業概要・目的	<p>大石地区で毎年開催されている「八朔祭」は1706年（宝永3年）に始まり、平成30年に312回目を迎える地域の伝統文化であるが、この伝統文化を近隣地域との連携により継承し活用する方法を、これからを担う子ども達と意見を出しあいながら考えるワーキングを実施する。八朔祭においては本堂の飾り付け（献灯提灯）やのぼりの一新などに取り組む。献灯提灯やのぼりのロゴに関しては、江戸の時代からの伝統を継承し、令和につながる新しいカタチを見据えたデザインに一新する。</p>		
現状と課題	<p>時代と共に少子化や人口減少、高齢化が進む中で、多くのまつりやイベントが継続することすら困難になってきている。大石地区では若者を中心に地域が一体となって「八朔祭」を盛り立て継承している。地域の伝統文化である「八朔祭」の中で開催される一大イベント「八朔まつり」を、さらにこれからの未来へどのような形で継承していくかが今後の課題である。</p>		
事業内容	<p>【事業1】どのような形で「八朔祭」や地域の伝統文化を、近隣地域と連携・継承し、活用するかについて、地域の小中学生を中心とした、これからを担う子ども達と意見を出しあいながら考えるワーキングを行った。 ⇒ 事前に全校アンケートを実施し、8月31日の八朔まつりで「放課後音楽祭」としてイベントを実施 「放課後音楽祭」と中学生の八朔まつり企画会議への参画は今後も継続していく</p> <p>【事業2】ワーキングは、自分たち住民主体で考えるだけではなく、まちづくりという分野の講師に来ていただき、外部からの目線も視野に入れた客観的なワーキングを、小学6年生と中学生を中心に地域の方が加わってグループワーキングを開催した。 ⇒ 12月21日に「我がまちみらい塾」としてグループワーキングを開催</p> <p>【事業3】「八朔祭」の飾り付け（献灯提灯）やのぼりの一新、取付場所の修繕等に取り組んだ。装飾の一新にあたってはスポンサーの第三銀行様をはじめ、大石観光協会や地区内外の企業・団体から広域的に協力を得ることができた。献灯提灯やのぼりのロゴは、300回を超える「八朔祭」のこれまでとこれからのを繋げる新しいカタチをめざすデザインとした。 ⇒ 8月31日の八朔まつりで一新した献灯提灯やのぼりで飾り付けを実施</p>		
	事業費	(採択金額) 400,000円	(総事業費) 414,710円
	実施日・期間	8月31日（八朔まつり） 12月21日（ワークショップ）	参加対象者・人数 地域内・地域外の方 小中学生 等
工夫したところ 悩んだところ	<p>子ども達を起点に、多くの方に「まちづくり」への興味を主眼に、視点を「近未来」や「歴史文化」だけではなく、子ども達の「未来」への思いを入れる事業として実施した。「八朔まつり」についても、子ども達がまつりに参画することで、まつりを自分たちのものと感じ、地域愛を育むことを目指した。 また、地域のことを地域だけで考えると狭い視野になりがちなことを懸念し、外部から講師を招き、12月21日には「我がまちみらいづくり塾～我がまちの今を知ろう～」として、広い視点と視野でワークショップを開催した。</p>		
成果・効果	<p>飾り付け（献灯提灯）やのぼりの一新、取付場所の修繕や、子ども達による放課後音楽祭の開催等により、令和元年度の「八朔まつり」はこれまで以上の集客と賑わいがあった。また、次年度から、中学生がお祭りのイベント企画会議から参加していくという流れも生まれ、伝統文化の継承に子ども達に関係していく礎を築くことができた。 「八朔まつり」と同時開催した「八朔まつりフォトコンテスト」にも、今までになかった新たな参加者の顔も浮かび、放課後音楽祭と共に、地域の活性化に一役買うこととなった。 ワークショップでは、子ども達と普段顔を会わさない地域の大人とのグループワークによりお互いに新たな発見ができ、子ども達の「未来」へ対する視点の切り替えに繋げることができた。 また、ワークショップでは、令和元年度から進行中の「山車再生プロジェクト（山車の修繕）」の展示を行い、「山車」という地域活性の起点を子どもから大人まで認知してもらえる活動ができた。</p>		
これからの 事業展開	<p>「八朔まつり」の企画会議への中学生の参画を基盤に、まちづくりの主角を子ども達にもっていく活動を続けていきたい。これからを生きる子ども達目線の発想を根付かせていきたい。そのために、地域の大人と子ども達とのワークショップ「我がまちみらいづくり塾」の定期的・広域な開催に努めていきたい。</p>		

活動の様子など

令和元年 8月31日(土) 宵宮
16:00 奉納大鼓 盆おどり
20:00 仕掛花火 カラオケ大会
9月1日(日) 本日
祭式のみおこないます

主催 大石観光協会
後援 松原市 多気町 一般社団法人松阪市観光協会 多気町観光協会
大石町自治会 小片野町自治会 大石水戸自治会 多気町彦多楽区 大石地区まちづくり協議会

八朔まつりフォトコンテスト 開催します!!
『令和元年大石八朔まつり』で豪華賞品GET!! ※詳しくはチラシをご覧ください

9/10(月) 投稿まで有効

大石観光協会 令和元年八朔まつり
フォトコンテスト

特産松阪牛/まつさか豚/とり焼肉 豪華賞品GET!!

8月31日(土) 八朔まつり宵宮の写真ならんでもOKです

お問い合わせはコチラ
大石観光協会 会長 野田一平 090-5608-6695

八朔まつり こども企画イベント
事前アンケート (案)

1. 八朔まつりに参加したいイベントはありますか?
2. 八朔まつりに参加したいイベントはありますか?
3. 八朔まつりに参加したいイベントはありますか?
4. 八朔まつりに参加したいイベントはありますか?

大石観光協会

令和元年 八朔まつり
放課後音楽祭

8月31日(土) 16:30

カラオケ
ダンス・コント
おんでもござれ!!

自立で思い
楽しみ思い
誰とでも
何人でも
八朔まつりで
最高の思い出を
作りませんか?

← 各種チラシ
↑ アンケート

大人が本気でこども達のことを考えてみました



左下写真は実際のフォトコンテスト受賞作品

下中央写真は「我がまちみらいづくり塾」の様子
こどもから大人まで多様な方の参加の様子がうかがえます

右下写真は「山車再生プロジェクト」展示会
来年はここからリニューアルした山車が松阪祇園まつりにお目見え!!地元有志とこども達で曳き回します。 ※平生町自治会との連携



令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

＜地域力アップ部門＞

住民協議会名 漕代まちづくり協議会

事業名 まかせて！！漕代支援隊 買い物外出支援の開始

事業概要・目的	発足当初から実施してきた事業で、高齢者世帯を対象に行っていた「住民参加型在宅福祉サービス」の一環としてメニューを増やして行うものです。		
現状と課題	高齢者世帯が多い地域で、近鉄漕代駅はあるものの近くのスーパー等へ行く交通手段がなくタクシーの利用では費用がかかることから、高齢者の外出の機会が失われている状況もあり、サービス内容を増やし、より充実した内容にするため外出・買い物仕方・車の運転状況などのアンケート調査を行い支援があるならば利用したいという結果からこの買い物外出支援を実施することに決定した。		
事業内容	<p>地域で安心・安全に暮らすために結成した、住民による住民のための会員相互の助け合い活動を行う「まかせて!! 漕代支援隊」が、令和元年6月1日より「買い物外出支援」サービスを始めました。</p> <p>高齢者世帯（65歳以上の一人世帯、65歳以上のみの世帯）を対象に、買い物に行きたくても出かける手段がない方や大きな荷物を運ぶのが大変な時などに利用いただけるようになっています。</p> <p>電話で事務局に利用日時を予約し、事務局が提供会員と調整を行い、当日提供会員が利用会員のご自宅に車で伺います。その車に同乗いただき希望の買い物先まで一緒にむかいご自分でゆっくりとお買い物をさせていただきます。その後、車にてご自宅までお送りします。お店での買い物時間に応じて、1時間500円の利用料金をいただきます。</p>		
	事業費	(採択金額) 400,000円	(総事業費) 400,016円
	実施日・期間	令和元年度	参加対象者・人数 提供会員13名
工夫したところ 悩んだところ	<ul style="list-style-type: none"> ○同様なサービスを展開している名張市、伊賀市に出向き問題点を把握。 ○陸運事務所に出向き、道路運送法の許可や登録が必要かなど実施する上での法的な問題の協議を行った。 ○車輛を利用し利用者を同乗させるため、事故等への対応をどうするか。 		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ○年間2件（利用者1名）と成果は上がらなかった。 ○いざとなればこのサービスも利用できるのと、一つの安心感と保険的な意味合いになったのではないかと考える。 		
これからの 事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ○「買い物外出支援サービス」のみに留まらず、地域の高齢者世帯の安価な移動手段として、他にできることがあればと考えている。 		

活動の様子など



令和元年6月
買物支援出発式



令和元年6月
買物支援出発式



令和元年5月 早馬瀬町
草刈り作業



令和元年7月 稲木町
草取り作業



令和元年7月 伊勢場町
庭木の剪定作業



令和元年8月 横地町
牧垣の剪定作業

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

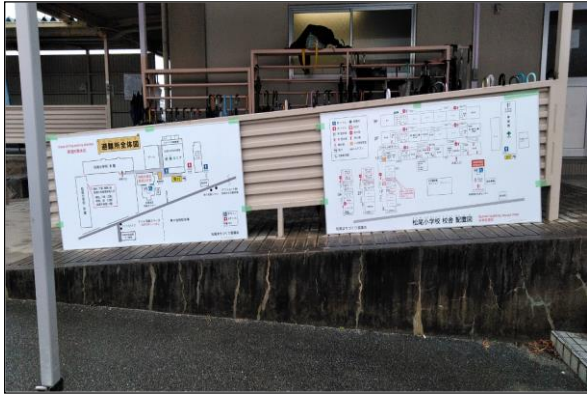
＜地域力アップ部門＞

住民協議会名 松尾まちづくり協議会

事業名 松尾独自の防災への取り組みと避難所運営委員会

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害に対処するために地域主導の防災への取り組みを進める。 ・避難所運営委員会を立ち上げ、松尾独自の避難所運営マニュアルを作成する。 ・発災時に速やかに避難所を立ち上げるために準備物の備蓄、整備を進める。 ・災害時に対応できる枠組みを構築することにより、避難時の不安を少しでも減少させることで心の健康を確保する。 		
現状と課題	<p>毎年、松尾まちづくり協議会主催で集団避難訓練、初動期の避難所の立ち上げ訓練、各種防災訓練を実施し、年2回の救急救命講習会も開催している。また、災害時の協力井戸の確保を図っている。避難所を運営していくうえで更に必要な備蓄や設備が十分ではなく地域の予算も限られている。市の防災計画では、当管内には松尾小学校、中部中学校、オーシャンファーム武道館の3ヶ所が避難所として指定されているが、中部中学校とオーシャンファーム武道館で避難所を運営するには、松尾地区以外の住民協議会、自治会との擦り合わせが必要である。特にオーシャンファーム武道館にあっては施設管理者が当該施設に常駐していないため、打ち合わせが容易でないなどの課題がある。</p>		
事業内容	<p>当協議会では3年前から行政だけに任せず地域で避難所運営ができるよう、「避難所運営検討委員会」を立ち上げ、運営マニュアルの作成を進めてきた。その中で初動期に欠かすことのできない避難所の設立、そして避難者の為の資機材や誘導時のわかり易いサイン類が必要不可欠であることから、それらの整備に取り組んだ。</p> <p>また、市長が掲げる安心安全のまちづくりに伴う事業として防災訓練を通じて、避難所運営マニュアルの検証を行い、マニュアルの完成度を高めた。</p> <p>発災時には地域からの支援を得るために関係機関（者）と支援協定を結ぶと共に、避難所を運営していくうえで必要なビブスの購入や案内看板を作成するなどして、災害に備えた。</p> <p>●地区防災訓練 令和2年2月16日（日） 参加者 170名</p>		
	事業費	(採択金額) 200,000円	(総事業費) 341,385円
	実施日・期間	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	参加対象者・人数 松尾地区全住民を対象
工夫したところ 悩んだところ	<p>避難所に設置するサイン類（案内）は、高齢者、幼児、障がい者、外国人に配慮して、ピクトグラムでの表示、ひらがなや英語、中国語を併記した。しかし、その他の言語については、翻訳の資料が見つからず、今回は見送ることになった。またインフルエンザ等の感染防止のために収容教室や専用トイレの設置を行ったが、新型コロナウイルスに関しては、受付時の感染者の判別などその対応には課題があると感じた。</p>		
成果・効果	<p>避難所スタッフ専用のビブスを着用することで、スタッフと避難者との判別が容易になった。またスタッフの責任感が高まり、スムーズな避難所運営が行えた。食品の表示方法等についてスタッフが独自にアレルギー表示をするなどしてわかりやすくした。また混雑を緩和するため、受付では名簿の記入を世帯代表のみとし、その後、世帯員について記入するなどの工夫をして避難者の把握を速やかに行うことができた。さらに運営側への避難住民の参加を依頼し一定の成果があった。</p>		
これからの 事業展開	<p>新型コロナウイルスの影響により避難所運営マニュアルの完成が遅れているが、早期に完成させ、地域住民への広報と周知を進めると共に各自治会ごとにHUG（避難所運営ゲーム）などを実施して避難所運営への理解が進むようにしていく。また、地域の事業所に災害時の連携を依頼して行きたい。</p>		

活動の様子など



体育館前に避難所全体図と校舎配置図を掲示しました。(パネルタイプ)



混雑しないよう配慮された受付と多言語表示の受付看板を設置しました。



避難所運営委員会本部とペット同伴受付所の様子



自治会別に区割りされた收容スペース(体育館)



女性に配慮して、個別に女性用品配布所を設置しました。



症状別、男女別に配置された感染者用の部屋(写真は、発熱、咳 男用教室)

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 豊地まちづくり協議会

事業名 “清流中村川と地域の風土体験に学ぶ” パート 4

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・豊地のど真ん中を並々と水を絶やすこと無くあらゆる歴史をみつめてきている清流中村川近隣の豊かな自然と共存する。 ・当地区の高齢化に伴う宅老所への取り組みにより笑える健康長寿を図る。 ・防災への取り組みによる災害への機敏な対応ができる。 													
現状と課題	<p>現状：中村川は戦国の時代から豊地のど真ん中を流れ、農業用水や防火用水等として豊地地区民に清流を提供し、生活の糧となっています。しかし、堤防の周辺には危険個所がたくさんあります。また、中村川の魅力等が野放しにされています。</p> <p>課題：集中豪雨に脅威の川となることが予想されることから、できる範囲の防災対策に取り組めます。</p>													
事業内容	<p>①稲作体験 地区民と小学校等とコラボを組んで活動した。 ・田植え、稲刈り等お米の出来るまでの体験学習</p> <p>②ほたる観察会 中村川周辺の歴史探訪等による勉強、ホタルの里の管理と鑑賞会</p> <p>③大谷川の危険個所の抽出と危険表示、ロープ、柵等による注意喚起を行った。</p> <p>④宅老所交流会 宅老所活動への取り組み</p> <p>⑤防災研修会 実情にそぐう防災活動への取り組み ・防災研修会を行った。各自治会に合った取り組みや防災マップの説明。</p> <p>⑥中村川ウォークラリー ・島田びわの里～堀之内</p> <table border="1" data-bbox="328 1429 1437 1503"> <tr> <td>事業費</td> <td>(採択金額)</td> <td>200,000円</td> <td>(総事業費)</td> <td>396,572円</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="328 1503 1437 1574"> <tr> <td>実施日・期間</td> <td>平成31年4月～令和2年3月</td> <td>参加対象者・人数</td> <td colspan="2">まちづくり協議会、自治会長会、小学校、育成会</td> </tr> </table>				事業費	(採択金額)	200,000円	(総事業費)	396,572円	実施日・期間	平成31年4月～令和2年3月	参加対象者・人数	まちづくり協議会、自治会長会、小学校、育成会	
事業費	(採択金額)	200,000円	(総事業費)	396,572円										
実施日・期間	平成31年4月～令和2年3月	参加対象者・人数	まちづくり協議会、自治会長会、小学校、育成会											
工夫したところ 悩んだところ	<p>屋外行事が多いことから、台風等の天候により日程調整が難しかった。</p>													
成果・効果	<p>子どもから高齢者の世代の交流ができ、豊地地区内の活性化が図れた。 3世代との集いによる「楽しい豊地」、防災対策等で「安心できる豊地」の構築ができた。</p>													
これからの 事業展開	<p>今後は、住民のニーズや時代に沿った事業を展開し、子どもから大人までが楽しめる町を作っていく。 また、安心安全のまちづくりを目指していく。</p>													

活動の様子など



①稲作体験



②ほたる観察会



④宅老所交流会



⑤防災研修会



⑥中村川ウォークラリー

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

＜市民活動サポート部門＞

団体名 まつさか子育てママチーム

事業名 困っているママに寄り添う「リアルママカフェ」

事業概要・目的	<p>悩み事や普段の思い等を話し合う「リアルママカフェ」を開催する。イベントを通じて、同じ悩みごとのある仲間を見つけたり、情報の交換を行う。また地域のママが集まり、公民館（地域の施設など）で地域の方々と交流するきっかけ作りとして座談会を提案していく。その中で特定の困りごとのあるママに焦点を合わせた座談会を開催する。</p>		
事業内容	<p>「嬉野中川地区 こども服あげたい人もらいたい人交流会」を開催。こども服の交換を通じて、地域のママの交流の場になるよう設定した。</p> <p>不要になったこども服を持ち寄り、サイズ別に設置した置き場へ並べておいてもらい、参加者は自由に見て周り、欲しい服は好きに持って帰ってもらう形で開催した。また、ママたちがゆっくり服が見られるように会場中央にはキッズスペースを設け、木育おもちゃを配置しこどもたちが自由に遊べるスペースとした。</p> <p>市内嬉野中川地域には転入ママが非常に多いということで、地域的な困りごとはないか、子育てに孤独を感じていないかなど困りごとをヒアリングすることを目的とし、段階的にその問題点を抽出できるように嬉野中川まちづくり協議会と連携をとり、一段階目として今回のイベントを企画した。</p> <p>また、二段階目として交流会に参加した方を中心に地域での子育てについてゆっくりお話頂くりアルママカフェを設ける予定だったが、新型コロナウイルスの影響でやむを得ず延期することになった。</p>		
	事業費	(補助金額) 28,185円	(総事業費) 56,371円
	実施日・期間	令和2年 2月 26日(水)	参加対象者・人数 嬉野中川地区の子育て世帯約100人
工夫したところ 悩んだところ	<p>フリーマーケットのようなブース形式にするか、単純にサイズ別にするかで悩んだ。ブース式だと出品者が自分のブースから動けなくなり、サイズ別陳列だと交換時の交流が生まれにくくなる等、どちらも一長一短あり悩んだ。また、肌着・下着はNGとしたがどこまでが肌着なのか、服以外の物品の出品はどうするか等、細かい規約の制定に議論を要した。</p>		
成果・効果	<p>約100人ほどがご家族で参加。参加者へのヒアリングの結果「このような交流会があまりないので定期的にしてほしい」「幼稚園以上の子育てママが集まるイベントも希望する」「幼稚園児への広報は回覧板だと時間がかかりタイムラグがある。幼稚園や保育園に直接配布してほしい」などの意見が出た。</p>		
今後の事業展開	<p>知り合いが欲しいママ同士を繋いだり、イベント企画をしたいという潜在的リーダーにお声がけしてイベント開催のノウハウを伝授し、開催をサポートしていくことになった。</p>		
地域との連携	<p>今回のイベントを行った上で地域の方から出てきた意見を嬉野中川まちづくり協議会の会長に伝え、改善点などを相談した。また、今回延期となったリアルママカフェ（座談会）を開催し、この地域のママたちが何を求めているのかの吸い上げのお手伝いをして行きたい。</p>		

活動の様子など



会場内の様子（全体）



こども服交換コーナーでは
ママさんたちの会話も弾んでいました



置かれた服は自由に手に取って
見ることができるように



会場中央のキッズスペース



木でできたおもちゃでこどもたちが
自由に遊ぶことができます



大好評の木のボールプール
ヒノキの香りで大人も癒されました

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<市民活動サポート部門>

団体名 特定非営利活動法人 i sierra

事業名 分割・移動式の「香肌峡どこでも舞台」活用事業

事業概要・目的	ワークショップにより分割・移動式の舞台（ウッドデッキ）を製作し、地域の様々なイベントや観光交流事業などで活用する。			
事業内容	<p>香肌峡県立自然公園の中の重要な観光資源のひとつである倭姫（やまとひめ）伝説の残る「姿見の池」周辺は、香肌峡の中でも香肌長瀬（かはだながとろ）と呼ばれ、橿田川の水の透明度と独特の岩肌が作り出す渓谷美は、県内随一である。</p> <p>しかし、「姿見の池」周辺は、岩場が多いためやや足場が悪く、長時間の滞在には適していない現状がある。</p> <p>そこで、分割・移動式の「香肌峡どこでも舞台」というウッドデッキをワークショップ形式（例：参加者も一緒にウッドデッキ製作を体験する形式）で製作し、どこにでも出現する快適な舞台空間を作り出すとともに、参加者とともに利用方法を検討することとした。</p> <p>地元産のヒノキを使用したウッドデッキの設計ののちに、参加者を公募し、7月26日に分割・移動式のウッドデッキの製作ワークショップを開催した。</p> <p>完成したウッドデッキは、「姿見の池」に運び出し、参加者とともに香肌峡の絶景を見ながら茶道を体験した。</p> <p>利用方法については、香肌峡エリアで開催される様々なイベントでの活用、飯南高校での活用、飯高駅付近を鴨川での「床」のようなものへ発展させることなどについて話し合われた。</p>			
	事業費	(補助金額)	100,000円	(総事業費) 246,088円
	実施日・期間	令和元年7月26日		参加対象者・人数
工夫したところ 悩んだところ	<p>比較的若い方や女性に参加いただけるよう、飯南高校に協力いただいて参加を呼び掛けたり、これまでに自然体験プログラムに参加していただいた方にもお知らせした。</p> <p>製作するウッドデッキは、長く活用されるにはどのようなものにしたらよいか議論を重ね、材料は地元産のヒノキにこだわり、伝統的な木工の手法を採用するよう、設計にもこだわることとなった。</p>			
成果・効果	ワークショップを通じて、様々な方が知り合うことができ、小さいながらも地域に関心がある個人のつながりが広がった。			
今後の事業展開	製作したウッドデッキをイベントなどで活用していくとともに、地域づくりに関心がある様々な方々をネットワーク化していきたい。			
地域との連携	若い世代のIターンやUターンの取組や移住者のネットワークづくり、地域の子どもたちへの自然体験の提供などに取り組んでいきたい。			

活動の様子など



作業の風景



作業の風景(高校生)



完成した桧舞台



参加のみなさんで運搬



早速、香肌峡の景勝地で茶会を開いてみる



やり遂げたみなさん

令和元年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<市民活動サポート部門>

団体名 松阪ハーモニックジュニアバンド

事業名 ブラスで繋げ、人と地域

事業概要・目的	<p>①地域のイベントに参加し、子どもたちの笑顔と元気な音楽を通して、魅力ある地域づくりに貢献します。</p> <p>②児童期からの音楽活動を促し、演奏人口増加や、地域の音楽文化の更なる発展を目指します。</p> <p>③住民協議会と連携し、「このまちに住んでよかった」と思ってもらえる地区、「誇れるまち」を目指して活動します。</p>		
事業内容	<p>5月に大口町の生活介護事業所ベルフレンドで、利用者の皆さんとハーモニックジュニアバンドの団員・保護者と共に手作り楽器を作りました。作成した手作り楽器は出張演奏先にて使用し、ブラスバンドの音色とのコラボ演奏を行い、一緒に音楽を作り上げる経験を通して、市内の子どもたちに楽器演奏の魅力を伝えました。</p> <p>市内唯一の小学生金管バンドとして、地元幼稚園、小学校文化祭での演奏も行いました。第四小学校文化祭では楽器体験を行い、音楽好きな仲間を増やすべく呼びかけました。楽器を手にとり、楽器の魅力に触れてもらい、聴くだけでなく演奏する楽しさを体験してもらいました。</p> <p>9月には「しょんがいまつり」で松阪の伝統芸能である「しょんがい音頭」のブラスバンドバージョンを演奏しました。地域の子もたちが演奏に合わせて歌ったり踊ったりする姿が印象的でした。</p> <p>10月には「松阪市子ども会連合会50周年式典」でオープニング演奏を行い、地域の子もたちに元気いっぱい演奏をお届けできました。</p> <p>また「松阪子どもまつり」「輝けブラス」「松阪吹奏楽フェスティバル」といった市内イベントに参加し、イベントを盛り上げると共に、多くの方々にハーモニックジュニアバンドの演奏を聴いてもらいました。</p> <p>(3月にもベルフレンドでの演奏を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で中止となってしまいました。)</p>		
工夫したところ 悩んだところ	事業費	(補助金額) 100,000円	(総事業費) 200,586円
成果・効果	実施日・期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日	参加対象者・人数 地域の音楽愛好家(事業合計24,635名)+地域の方々
今後の事業展開	<p>これからも音楽を通して市内の多くの方に笑顔と元気を届けていきます。地域のイベントや出張演奏にも続けて参加していきたいです。</p>		
地域との連携	<p>演奏を聴いてもらうだけでなく、楽器作りを一緒にしたり、演奏に参加してもらったりし、地域の皆さんの楽しみや元気の増進に役立ちたいと考えています。</p> <p>イベントや行事を通じて、他団体との交流を深め、一緒に更なる地域の活性化を目指していきたいです。</p>		

< ベルフレンドで手作り楽器作り >



ベルフレンドで、利用者の皆さんと手作り楽器作りや演奏をして楽しみました。
作った楽器は他の出張演奏先でも使用し、参加者の皆さんと一緒にコラボ演奏します。



< 出張演奏 >



松阪幼稚園での様子



泰山荘での様子

地域の元気応援事業 年度別採択一覧

住民協議会名	平成 24年度	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	令和 元年度
		独創	広域	地域力	広域	地域力	広域	地域力	広域	地域力	広域		
松阪中央住民協議会			☆		☆	○		○	△			▲	
幸まちづくり協議会	○		☆		☆			○	△			▲	
第二地区まちづくり協議会			☆										
第四地区住民協議会			☆			○			◆	○	◆		
神戸まちづくり協議会				○						○		○	
徳和住民協議会						○						○	
東地区住民協議会													
朝見まちづくり協議会			◇		◇	○	◇	○	◇	○	◇	○	
掃水まちづくり協議会	○		◇	○	◇	○	◇		◇	○	◇		
漕代まちづくり協議会			◇		◇		◇		◇		◇	○	○
伊勢寺地区住民協議会												○	
阿坂まちづくり協議会		○		○	◎	○		○		○		○	○
宇気郷住民協議会	○		★	○									
西黒部まちづくり協議会	○		◇		◇		◇		◇◆		◇◆		
東黒部まちづくり協議会			◇		◇		◇		◇◆		◇◆		
機殿まちづくり協議会			◇		◇		◇	○	◇	○	◇	○	○
大石地区まちづくり協議会								○		○			○
茅広江まちづくり協議会				○		○							
射和地区まちづくり協議会										○			○
鈴の森住民協議会						○						○	
港まちづくり協議会									◆		◆		
松ヶ崎まちづくり協議会			★	○		○		○	◆	○	◆	○	○
花岡住民協議会						○							
松尾まちづくり協議会		○		○		○		○		○		○	○
大河内地区まちづくり協議会		○		○				○				○	
嬉野宇気郷住民協議会		○	□										
中郷まちづくり協議会		○	□										
豊地まちづくり協議会	○	○	□		◎			○		○		○	○
嬉野中川まちづくり協議会			□										
豊田まちづくり協議会			□							○			○
中原まちづくり協議会	○	○	□	○		○		○		○		○	
米ノ庄住民協議会				○									
天白まちづくり協議会									◆		◆		
鶴まちづくり協議会	○								◆		◆		
おのえ住民協議会													
有間野住民協議会										○			
粥見住民協議会										○			
仁柿住民協議会						○							
柿野住民協議会								○					
宮前まちづくり協議会	○	○			■	○		○		○		○	○
川俣地区住民協議会		○			■			○					
森を考える会					■								
波瀬むらづくり協議会	○				■			○		○		○	○
	9	9	4	10	4	14	1	15	3	17	2	16	11

市民活動団体名	平成 26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度
松阪サブカル交遊会	○					
笑びすや農園	○					
まさかのまつさか	○					
喜心	○					
ミズ・ネットワーク松阪	○					
松阪ダンボールコンポストの会	○					
五和会		○				
まつさか子育てママチーム		○			○	○
『いっしょにあそぼ！福島っ子』の会		○				
飯Ne！！		○				
東自治会館（宅老所）		○				
薬王寺ゆったり庵		○				
瑞巖寺庭園保存会			○			
松阪ハーモニックジュニアバンド			○	○		○
神ノ木台健康イキイキ仲良しクラブ			○			
このゆびとまれ				○		
阪内町まちづくり委員会				○		
音楽のアトリエMUSICANO（ムジカーノ）					○	
特定非営利活動法人 i sierra						○
	6	6	3	3	2	3

独創 …… 独創事業部門。独創的なアイデアや地域らしさを生かして地域が協力し合って活動する事業（26年度から地域力アップ部門に変更）

広域 …… 広域連携部門。複数の住民協議会が共同で取り組み地域間の広域連携を推進し連携の輪を広げる事業（30年度から地域力アップ部門と統合）

地域力 …… 地域力アップ部門。地域の課題解決に向け地域の個性を生かし地域全体が一体となって取り組む事業（30年度から広域連携部門と統合し、複数の住民協議会で取り組む事業も対象）

○以外の記号 …… 複数の住民協議会が連携して取り組んだ事業

☆ゾーン30計画実行委員会
★海と山の交流
◎白米城交流サミット

□嬉野ハッピーフェア
△松阪三珍花花碑建立
▲歩いて楽しい道づくり

■和歌山街道観光開発
◇東部管内防災ネットワーク
◆松阪市臨海地域防災ネットワーク

<お問い合わせ先>

松阪市 企画振興部 地域づくり連携課

〒515-8515 三重県松阪市殿町 1340 番地 1

TEL 0598-53-4324 FAX 0598-22-1377

E-mail commu.div@city.matsusaka.mie.jp